



山中 愛理 ちゃん

「にっこり笑顔がキュート♡」

(中 町)



若林 琉偉 くん

「助手席に夢を乗せて運転中」

(桜木町)



島崎 陽菜 ちゃん

「じゃじゃ馬娘」

(上宮地町)



笠原 快斗 くん

「いもうとだ〜いすき!」

(寺 尾)



応募方法

1〜1歳半程度のお子さんの写真を同封し、住所・保護者の方とお子さんの名前・電話番号・生年月日とコメントを明記のうえ、市役所広報広聴課（〒368-8686 熊木町8-15）までお送りください。抽選に漏れた方も、2歳になる月までは翌月の抽選に繰り入れ、再抽選しています。なお、市のホームページで公開している「市報ちちぶ」にも同様に掲載します。

市民文芸

俳句

白息を手に擦りこんで達磨売
鏡餅ひびの入る音一人の夜
七日粥右手麻痺せし母の匙
晩年を気楽に生きる初日の出
病む夫と孫らと過ごす三ガ日
一仕事仕上げて今朝の根深汁
山間の冬田ジグソーパズルかな
冬耕の土ほつくりと匂ひ立つ
餌台に雀の群れる雪催

竹内弥太郎 選

（評）今回は新年に取材したものが多く見られ、そこにはいろいろな人生模様が描かれていました。美代さんは上五から中七への描写に、達磨売を生き生きと表しました。あや子さんは寂寥感の中に、自己の思念を研ぎ澄まし、大仙さんは母親への思いを、七日粥に描きました。定男さんは達観した生き方を初日に託し、幸子さんは病む夫の世話をしながら、孫の活力を貰い、邦子さんは初暦に取材して、楽しい年にする望みを描きました。冬田をジグソーパズルに見立てた真弓さんの作品をはじめ、佳句が寄せられました。

短歌

茶を呼ばれ詩歌を語る老二人しばし至福の時を過ごせり
激動の昭和生きぬき承えて軍国少女も八十路を越ゆる
吐く息に凍てつく睫毛に瞬きも意識して耐えしシベリアの冬
寒の夜ひとり酌む酒ほろにがし貧しかりにき戦後を思ふ
目覚めれば小鳥の囀り窓に聞く今日一日の活力湧ききぬ
「行つたわね」テレビに映る旅の街亡夫との思い出胸あつくする
皺々の大根漬けるに五・六日のせたる石の加減気になる
健やかに越年できたる喜びを主治医に伝え笑顔いただく
まゆ玉を作り飾りし小正月母との思い出外は粉雪
あの歌にしぐさに亡夫の偲ぶるしぐれ降る夜は今なほ恋し

新井 悦子 選

（評）齋藤さん、趣味の詩歌を語り合える友人がいることは幸せです。静かな時間の流れが感じられます。半藤さん、八十歳を越えた方々の生きてきた過程です。坂本さん、シベリアの抑留を体験された作者。冬の厳しさを、睫毛も凍ると具体的に詠まれています。武島さん、前の二人と同じように昭和への思いを詠んでいます。三人の方がご自分の体験に思いをはせ、短歌にしています。年々こうした方が減ってきています。記録として残すうえでも詠み続けてほしいと思います。

※短歌、俳句の応募は毎月末までに、〒368-8686 熊木町8-15 市役所広報広聴課へ、必ず官製はがきでお送りください。（3月末締切り分→5月号に掲載）1通に2首または2句までで、1人1通のみとします。

投稿の際、住所・氏名は、作品の左側に書いてください。
なお、市のホームページで公開している「市報ちちぶ」にも同様に掲載します。
お知らせ 市民文芸または選者へのご意見・ご感想等は、市役所広報広聴課あてにお送りください。

自動車の後部座席も、必ずシートベルトを着用しましょう！
交通安全標語 「子の成長 願う心と チャイルドシート」